

# 府民の森ほしだ園地探鳥会 (毎月第4土曜日両園地通算第287回)

令和7(2025)年3月22日(土)9:30~14:30頃 日本野鳥の会大阪支部

友田武・神戸徹・近藤輝男・新名泰博・吉山 晃・平 軍二 (090-6901-1425)

## I 交野の鳥シリーズ(134)ハヤブサ

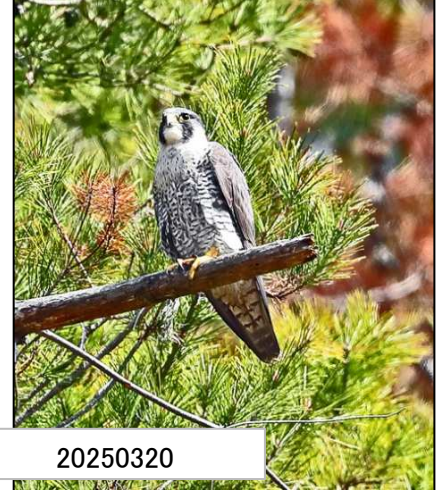
ほしだ園地では2005年からハヤブサが繁殖していたが、2019年以降繁殖しなくなっている。今年もほしだ園地でハヤブサが観察されているものの、今の所繁殖兆候が見られていないと、河村さんからの情報がある。最近、「3月12日・17日・19日・20日」のハヤブサを交野バードに公開されたので、うち3枚を利用させていただいた。



ハヤブサ(河村 壽氏) 20250312



20250317



20250320

### I-②ほしだ園地ハヤブサ 2025年(河村壽氏による)

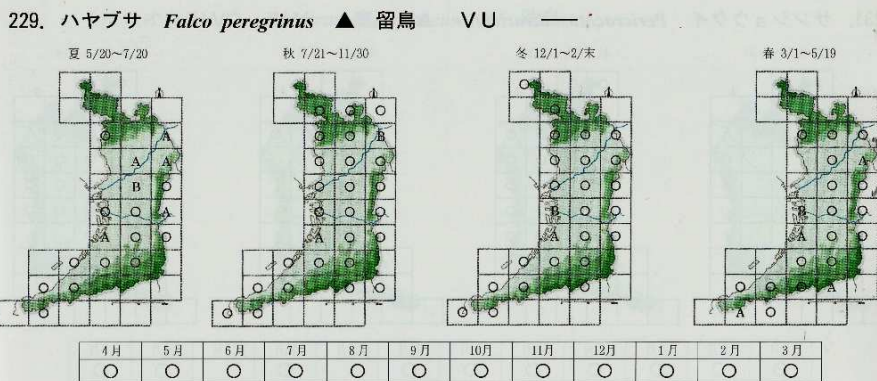
- ・近辺での繁殖情報なし
  - ・私は餌渡しも交尾も確認していない
  - ・現時点カップルが成立している様には見えない
  - ・朝方巣棚近くで鳴き声が聞こえるとの情報あり
- とのことで、このまま繁殖しない可能性がある。

### I-③交野野鳥の会 30年のあゆみ(2010年7月)

ほしだ園地でのハヤブサ繁殖始めたのは2005年である。

整理No.	種名	科	交野での確認月	頻度回数	初認年月、説明
137	ハヤブサ	ハヤブサ	通年	少	初認90年10月、交野山で確認。04年までは年に1回程度、上空で確認されているだけだったが、05年2月、ほしだ園地ピトン小屋前の岸壁で営巣して以来、毎年営巣し、08年5月には3羽、09年には2羽が巣立った。10年5月子育て中。

### I-④大阪府鳥類目録2016(日本野鳥の会大阪支部)



全世界に分布する。亜種ハヤブサ *F.p.japonensis* はレナ川からアナディール地方、チュコト半島のシベリア北東部、カムチャツカ半島、樺太、千島列島、日本や朝鮮半島南部で繁殖する。冬季には樺太、中国、朝鮮半島や日本、ときには台湾、フィリピンやボルネオ島で越冬する。大阪府ではもともと冬鳥で繁殖記録はなかったが、近年各地で繁殖が確認されるようになった。大阪希少鳥類研究グループによると1998年頃から夏季にも観察されるようになり、2004年に1つがい、2009年に4つがい、2013年に5つがいと大阪府での繁殖例が徐々に増えつつある。高層のビルや山地の崖等で営巣例がある。おもな生息地は山地や平地だが市街地にも現れる。泉大津ハヤブササポート倶楽部が作成した泉大津繁殖の記録表をP273の表3に示す。

#### 229. ハヤブサ *Falco peregrinus*

- 泉大津市なぎさ町 ('04.5.1 a-40 '15.3.3 a-30)
- 堺市西区築港新町堺第7-3区 ('06.2.21~23 b-61 '06.4.25~27 b-61)
- 島本町尺代 ('06.5.30 a-41)
- 高槻市鶴殿 ('06.6.16 ♀1羽 落鳥)
- 交野市ほしだ園地 ('08.6.28 a-40 '13.6.5 a-50)
- 堺市堺区南瓦町 ('09.12 b-80)
- 八尾市上尾町 ('11.6.2 a-40)
- 高槻市大塚 ('12.1.19 保護)
- 和泉市鶴山台(四) ('12.1.27 成鳥1羽)
- 阪南市桑畑 ('13.4.14 a-30)
- 東大阪市池島町 ('13.6.28 a-50)
- 松原市三宅西(一) ('13.9.7 1羽)
- 金剛山 ('13.11.23 1羽)
- 守口市淀川河川敷(高水敷) ('14.7.5 b-80)
- 阪南市黒田 ('15.9.20 2羽)
- 亜種 オオハヤブサ *F.p.pealei*
- 大阪市此花区夢洲 ('02.9.8 1羽)

## I-⑤ 全国鳥類繁殖分布調査（鳥類繁殖分布調査会）

### ハヤブサ

分類: ハヤブサ目ハヤブサ科 Peregrine Falcon *Falco peregrinus*

全長: ♂35-40cm ♀45-50cm 翼長: ♂305-333mm ♀348-378mm 尾長: ♂43-48mm ♀52-57mm 体重: ♂500-600g ♀400-500g

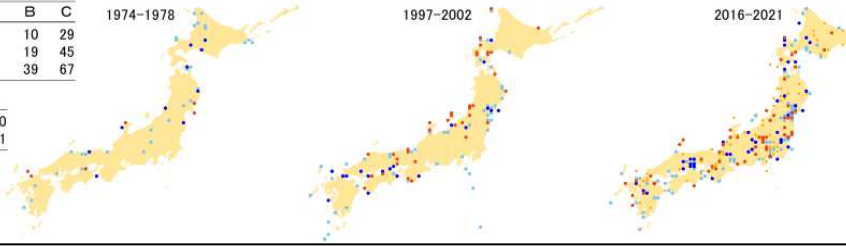
環境省レッドリスト: 絶滅(亜種シマハヤブサ, 絶滅危惧II類(亜種ハヤブサ))

各年代の分布状況の変化

メッシュ数	A	B	C
1974-1978	6	10	29
1997-2002	36	19	45
2016-2021	54	39	67

調査地数

1997-2002	30
2016-2021	41

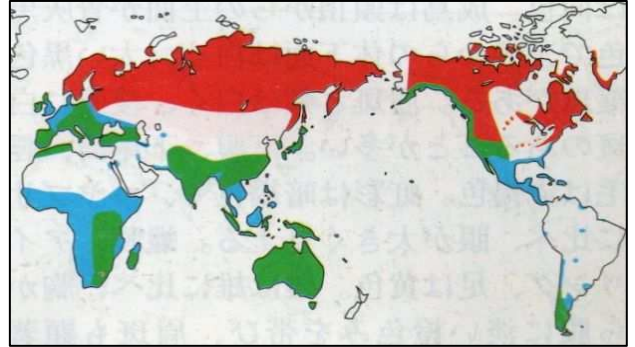


北海道から九州の平地から山地に留鳥として分布し、海岸や山地の断崖で繁殖する。都市のビルなどの人工物で繁殖することもある。記録メッシュ数は1970年代から1990年代の間に大幅に増加し、2010年代もさらに増加した。1990年代と2010年代でほぼ同じコースを調査できた現地調査の記録を見ても、ハヤブサが記録できた地点数は、30地点から41地点へと増加していた。

## I-⑥ ハヤブサ繁殖・越冬地図

真木・大西 日本の野鳥590 2000年 平凡社

オオタカは北半球全域に繁殖していて、範囲が広いと思っていたが、ハヤブサは南半球にも迄、ほぼ世界一円で繁殖していることがわかる。



## I-⑦ ほしだ園地ハヤブサの観察記録(与名正三氏)



*Falcon in the Forest*  
Shozo Yone

ISBN978-4-86249-172-5  
C0645 ¥1500E



9784862491725

定価(本体1,500円+税)



1920645015001



### 森のハヤブサ

ナニワの空に舞う

著者: 与名正三

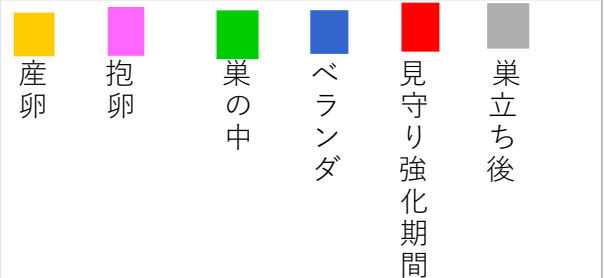
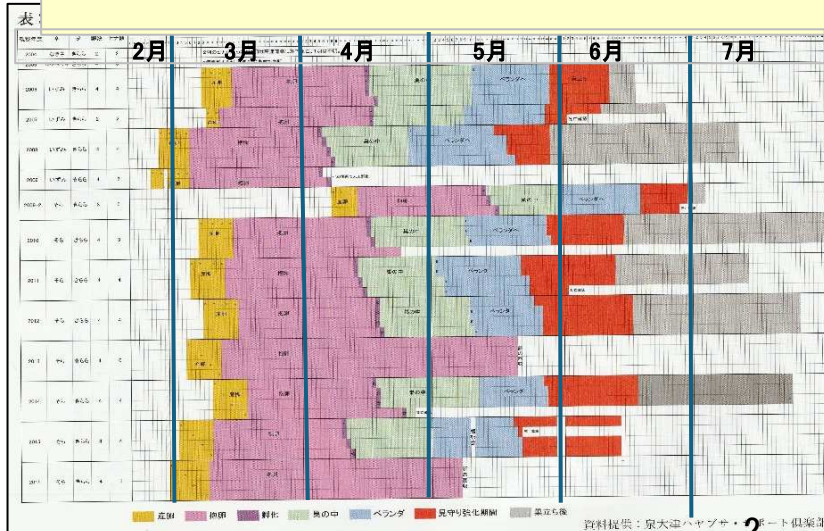
2011年2月発行

東方出版

@1500

2005年から6年間約400日間にわたっての観察記録。  
(与名氏は当時、奈良県生駒市、現在奄美大島在住)

## I-⑧ 泉大津ハヤブサの繁殖記録 大阪府鳥類目録2016 (2006年~2015年 / 2月~7月)



泉大津のハヤブサは、ほしだ園地とほぼ同じ2006年から毎年繁殖子育てをしている。ホテルの一室を占有し、ベランダが営巣場所である。



### Ⅲ 先月(2月22日) くろんど園地結果

探鳥会の終点でクロジが多く出るという情報があり、期待して出発した。月の輪滝までの平地でエナガの群、園地に入っすぐのすいれん池周辺でアオジの群やルリビタキがでるなどまずまずであった。しかし例年アトリ・マヒワが見られるオオバヤシャブシ・アキニレには来ている鳥がいなかった。幸い午後、くろんど園地出口(駐車場)周辺で珍しくクロジが出現、更にルリビタキも出た。下りの傍系集落でジョウビタキ・インヒヨドリ・ルリビタキ、途中の林でアオジの群、平地において田んぼでカワラヒワ19羽の群、終点の神社で目的のクロジが4羽もでた。途中から風が強くなり寒い日だったこと、スズメ・ウグイスが出ず19種にとどまったが、ルリビタキが多かったことや、お目当てのクロジを5羽も見ることができ、大満足で終えることができた。



上段↑ ヒヨドリ  
下段↓ ルリビタキ

コゲラ  
インヒヨドリ

アオジ (写真6枚とも  
シロハラ 渡邊信義氏)



↑ クロジ (渡邊信義氏)

2月探鳥会資料はクロジを中心にしました。クロジの観察予定地は、探鳥会終了地点の天田神社でしたが、当日はくろんど園地出口駐車場近くの道路上(標高300m地点)に、1羽出てくれました。上記クロジは、その時に渡邊氏が写されたので、砂利道を歩いています。

### Ⅳ 次回探鳥会 2025/4/26 くろんど園地 9:30私市駅前

今月と同じように、大阪支部HPのホームズ様式からお申し込みください。

4月は春の渡り鳥、キビタキ・オオルリが通過する季節。姿もさることながら、さえずりが天下一品、楽しみたいと思っています。



キビタキ (渡邊信義氏) 20240427